



図書館システム（自館作成）に関するアンケート

会誌編集部

今回報告を書いていた以外にも、図書館システムを自館作成している会員にアンケートに答えていただいた。図書館システムは高価であり、病院図書館のように小規模なところにはたやすく購入できるものではないので、図書館システムを自館作成している館の現状を知りたい館が多いのではないかと考えた。少しでも参考になれば幸いである。ご回答いただいた図書館（独立行政法人国立病院機構 京都医療センター 小田中徹也様、三菱京都病院 井上智奈美様、大阪府済生会泉尾病院 松川一紀・永井保子様、日本赤十字和歌山医療センター 鳥淵早希子様）には心からお礼申し上げます。

1) 使用しているデータベースソフト名

- (株)京都医療センター
ファイルメーカー Pro
- 三菱京都病院
ファイルメーカー Pro・Excel
- 大阪府済生会泉尾病院
Access
- 日本赤十字和歌山医療センター
ファイルメーカー Pro

2) 使用している機能

- (株)京都医療センター
図書受入、目録、予算管理
- 三菱京都病院
図書受入、雑誌受入、目録、貸出・返却、蔵書点検、予算管理、統計処理、相互貸借
(予算管理と統計処理は Excel。その他は

ファイルメーカー Pro)

- 大阪府済生会泉尾病院
図書受入、雑誌受入、目録、予算管理、統計処理、相互貸借
(図書受入と雑誌受入はシステム室が作成。目録、予算管理、統計処理は図書室が作成。相互貸借は Lettura とシステム室作成)
- 日本赤十字和歌山医療センター
図書受入、雑誌受入、貸出・返却、蔵書点検、雑誌特集記事入力

3) 目録について

- (株)京都医療センター
デスクトップのみ (入力・検索とも)
- 三菱京都病院
プリントアウトしている目録
 - 雑誌目録 (病図協に提出する際の形式でデータを入力し、そのリストを図書室内に置いている。)
 - 単行本目録 (分類ごとに、別置している図書のリストを書架に置いている。)
 - 製本目録 (プリントアウトして製本業者に提出している。これは雑誌データベースと連動している。)
- プリントアウトしていない目録
 - 雑誌と単行本データベースをイントラネット上に置いている。
- 入力項目
 - 単行本：シリーズ名、シリーズNo、書名 (よみ)、原書名、著者1 (よみ)、著者2 (よみ)、出版社、価格、版数、ISBN、分類、出版年、貸出状況 (リンク) など。書

名は奥付が基準。

- 雑誌：雑誌名（よみ）、ISSN、和洋、所蔵状況、出版社、オンラインジャーナル可否、受入状況、利用料、保管年、製本可否、購入書店名など

○大阪府済生会泉尾病院

所蔵目録のしおりにするために、Excel で図書室が作成。システム室が Access で作成した図書受入、雑誌受入から目的に応じて目録を作成できる。看護部には各部署（各詰所）に看護部用の目録を設置。

4) 使用している図書館システムの特徴

○(株)京都医療センター

昔の Hyper Card 風のメニューで、最小限の機能を持ち、誰もが使いやすいように開発。

○三菱京都病院

- 複数のファイルを連動させて使用。
- レイアウトを変更することで、さまざまな書式が 1 回の入力で作成できる。
- 初めての人でもわかりやすいように、検索手順を作成・表示できる。
- Mac でも Win でも使用できる。
- バーコード管理ができる予定。現在準備中。

○大阪府済生会泉尾病院

- クライアントとサーバーに分けて使用。図書室の事務の方のみデータの入力・削除が可能。利用者側は検索のみ。
- 出版社検索や診療科・部門検索のカテゴリを持たせ、目的別に検索できるようにしている。
- カテゴリーごとの検索で出力できる。

○日本赤十字和歌山医療センター

ソフトのデータベースの仕組みが簡単で、利用者管理ファイル・蔵書ファイル等別々に作ったデータをリレーションすることによって、一括で管理できる。

5) 現在の図書館システムあるいはその使用において、改善したい点

○(株)京都医療センター

貸出に使用したいが、利用者の協力がどこまで得られるか（24時間開館の中で）。

○三菱京都病院

- 相互貸借データベースの目録データの更新
- 和雑誌、洋雑誌に分かれている雑誌データベースの一本化（現在容量オーバーで不可能）。
- 装備用シールを必要に応じて少数枚でプリント。（A4サイズのため、現在はまとめてプリントしないとシールが無駄になってしまうため。）

○大阪府済生会泉尾病院

- 極力電子媒体による管理に切り替えていきたい。
- 図書の貸出履歴管理を行う予定。

○日本赤十字和歌山医療センター

- 現在のところは大丈夫だが、データが増えていくと動きが遅くなるのが心配。
- 貸出・返却が登録番号による手入力なので、バーコードをつけて合理化していきたい。

6) システムの維持にかかる手間や経費についての現状と、それに対する考え

○(株)京都医療センター

維持に手間はかからない。経費はファイルメーカー Pro の購入費のみ。

○三菱京都病院

現状

- データベースのバックアップは毎日。外部メディア（MO）へは 1 ヶ月に 1 回。
- ファイルメーカー Pro がバージョンアップすると購入を検討。
- データベースをイントラネット上で公開するため、使用端末分のソフトライセンスが必要。

考え

- バックアップ作業は手間だが、必要不可欠な作業。
- PC が故障しても、ある程度の修理は自分でしている。PC に関する知識が必要。
- システムは自分の手間のかけ具合とアイデアで良くも悪くもなる。
- 小さい図書室だからできていると考える。

○大阪府済生会泉尾病院

院内システム部門による管理を行っているため、手間や経費は特に発生していない。

○日本赤十字和歌山医療センター

作成時にはかなりの時間を要したが、維持にかかる手間や経費はほとんどない。

7) 使用している図書館システムの、導入時のいきさつ

○(株)京都医療センター

カード作成が面倒なので。

○三菱京都病院

前担当者が導入。最初はワープロ1台で始まった図書室だったが、Mac に詳しい医師の協力の下、データベースを作成。その後、不便さを感じたり、アイデアが出ると、改善を重ね、9年がたつ。

○大阪府済生会泉尾病院

病院機能評価に伴う図書室内整備のため。

医師・看護師が有効に図書室を利用するため。

○日本赤十字和歌山医療センター

目録・貸出がノート等を見てチェックしなければならなかったのが、業務の合理化のために。

8) 今後図書館システムをどうしていきたいか

○(株)京都医療センター

800×600画面で作成したので、XGA 画面用にバージョンアップしたい。

○三菱京都病院

バーコード管理を完成させて、利用者の貸出作業簡略化と時差のない蔵書点検の実施。

○大阪府済生会泉尾病院

- 院内 LAN を経由して病棟などから24時間検索できるようにしたい。

- 受注・発注業務のオンライン化の促進。

- 図書室の図書・雑誌の貸出アライバイ管理等を行いたい。

○日本赤十字和歌山医療センター

現状維持。